

表 1 肥満型糖尿病患者の経過と血清脂質

症 例 (生年月日)	肥満度 %	空腹時血糖 mg/dl	総コレス テロール mg/dl	トリグリ セライド mg/dl	症 例 (生年月日)	肥満度 %	空腹時血糖 mg/dl	総コレス テロール mg/dl	トリグリ セライド mg/dl	
1. M. K.(F) (S32. 4. 3)	52	164	211	264	6. Y. S.(F) (S37. 3. 22)	34	266	254	409	
	46	126	188	129		25	127	233	385	
	44	120	173	222		19	124	218	213	
	44	107	144	186		20	116	196	293	
	46	108	175	288						
2. Y. S.(M) (S34. 6. 14)	46	155	214	163	7. M. O.(F) (S37. 5. 24)	30	275	188	171	
	23	103	206	137		32	172	182	151	
	27	105	206	162	23	89	192	121		
	36	115	211	159	8. K. K.(F) (S38. 1. 9)	29	110	221	171	
	37	103	193	180		39	216	302	278	
	35	103	233	176						
	31	88	205	100		9. I. M.(M) (S38. 10. 22)	20	103	193	97
29	90	192	133	21			102	155	126	
23	105	194	164	15	103		205	143		
				20	95		161	337		
3. C. H.(F) (S35. 6. 12)	42	149	254	66	12	113	187	146		
	40	112	235	95	21	107	213	249		
	54	153	231	97	10. H. M.(F) (S37. 4. 16)	20	107	186	91	
	53	132	220	119						
	50	149	219	132		11. T. M.(F) (S38. 9. 27)	34	123	208	95
50	182	209	120	26			103	146	108	
4. J. M.(F) (S36. 3. 10)	43	127	197	79	12. H. O.(F) (S38. 11. 25)	34	160	185	194	
	45	139	154	66		28	117	177	140	
	30	111	173	68		7	146	177	193	
						10	71	169	197	
5. H. K.(M) (S36. 8. 9)	35	110	129	93						
	32	93	135	92						
	41	115	128	86						
	23	96	153	85						
	22	101	130	86						

全例に食餌および運動療法を行った。

治療によって体重調整が良好となるにつれ、血糖、血液脂質の異常が改善され、肥満度が増加すると増悪する

ことが明らかに示された。

糖尿病のコントロールと血清脂質、とくに T.G. と α 値の変動にはある程度の相関が認められている。

都内某高校 1 年生 (15才) 男子の血液脂質と 身長、体重、血圧の検討

清瀬小児病院 熊 谷 通 夫

生活程度の比較的安定した生徒と考えられる都内某私立高校男子 301 人について標題の検討を行った。

1. 身長相当の体重より本校生徒の体格をみると、肥満度 20% 以上のもの 16 人 (5.3%)、30% 以上のもの 19 人 (6.3%) 計 35 人 (11.6%) と平均的数値であったが、るい瘦危険域 (厚生省公衆衛生局栄養課) に入る者が 64 人 (21.2%) と意外に多かった。血液総コレステロール (総

α 値) の平均は 155.1 ± 25.2 mg/dl であり、 >200 mg/dl 以上の高 α 値を示したものは 14 人あったが、200~242 mg/dl の範囲にあった (4.9%)。これは後にもふれるが、るい瘦者が多いことが全ての値を低い傾向にしているものと考えられる。肥満者の総 α 値平均は 177.8 ± 27.4 mg/dl であるのに対し、るい瘦者のそれは 146.8 ± 18.5 mg/dl と有意の低値を示した。

肥満者で高コ値を示した者は 5/34 (14.7%), 正常体重者では 29/191 (15.1%), るい瘦者では 0/61 であって、るい瘦者には 1 人も高コ血症は認められなかったが、肥満者と正常体重者の間には高コ血症の頻度に差はなかった。血圧は測定条件が満足すべきものではなかったが、収縮期 130 mmHg, 拡張期 80 mmHg 以上を同時に示す者は 8 例 (2.8%) に認められた。この中で肥満者は 1 例、肥満と高コ血症の存在を認めたものは 1 例であ

た。以上から一番明らかなことは体重と総コ値の関係で、るい瘦者には高コ血症は認められなかったが、正常体重者と肥満者には高コ血症は等しい頻度で存在していたことである。

この他に学童 (6~12才) 121 例について総コ値を測定し、平均 170.1±37.5 mg/dl, >200 mg/dl の者 22 例 (18.1%) の成績を得た。

大阪地区学童の血清脂質の検索

大阪大学医学部小児科 藪 内 百 治
原 田 徳 蔵

高コレステロール血症と動脈硬化、虚血性心疾患とは、従来から深い関連を有することが示唆されている。家族性高脂血症とくに高脂血症Ⅱ型は著しい高コレステロール血症と動脈硬化を特徴とするが、その heterozygote でも小児期から比較的高い血清コレステロール値を示し、成人期の動脈硬化と密接に関連する。したがって小児期の血清コレステロールやトリグリセリドを測定して、小児期の正常値を確立するとともに、コレステロール高値を示す小児を見だし追跡することは、高コレステロール血症の早期発見および動脈硬化の予防に役立つ処が大いと思われる。今回吾々は、大阪府下の 2 つの小学校学童について血清脂質の検索を行った。

I. 対象および方法

2 つの小学校の 7 歳から 12 歳 (1 年~6 年) の学童、男児 295 名、女児 256 名、計 551 名について採血を行っ

た。コレステロールは Lieberman-Burchard 法で、トリグリセリドは酵素法でそれぞれ測定した。

結果：2 つの小学校は環境的に余り相違がないので、同年令の学童の数を合計して結果を算出した。男児の血清コレステロール値は 7 歳から 12 歳まではほぼ同じ位の値を示し、平均値として 160 mg/dl 前後に分布した。女子は男子に比しやや高く、その平均値は 162 mg/dl から 168 mg/dl であったが、男子との間に有意差は認められなかった (図 1, 表 1)。200 mg/dl 以上のコレステロール値を示したものは総数 44 名 (8.0%) で、うち男 18 名、女 26 名であった (図 1)。

血清トリグリセリド値は早朝空腹時の血清でないため正確な値といにくいだが、男児でその平均値は 70~89 mg/dl、女児の平均値は 78~95 mg/dl であった (表 1)。

血清コレステロールが 200 mg/dl 以上の小児のトリグリセリド値は特別に高い傾向はみられず、44 名の平均

表 1 学童期血清コレステロールおよびトリグリセリド値

年令	男		子		女		子	
	人数	コレステロール (mg/dl)	トリグリセリド (mg/dl)	人数	コレステロール (mg/dl)	トリグリセリド (mg/dl)	人数	コレステロール (mg/dl)
7才	54	160.4±22.0	79.8±51.8	56	165.3±22.6	93.3±50.0		
8才	44	163.0±27.9	77.6±38.9	52	164.9±23.2	83.8±35.9		
9才	57	163.2±24.1	70.6±28.9	27	169.7±24.0	90.1±40.0		
10才	53	159.7±19.8	77.0±52.5	56	162.5±19.8	82.6±33.4		
11才	48	167.9±21.4	84.9±40.7	27	168.7±24.7	78.8±39.9		
12才	39	161.1±18.1	89.2±50.1	38	166.2±22.8	95.6±49.4		

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

生活程度の比較的安定した生徒と考えられる都内某私立高校男子 301 人について標題の検討を行った。

1. 身長相当の体重より本校生徒の体格をみると、肥満度 20%以上のもの 16 人(5.3%),30%以上のもの 19 人(6.3%)計 35 人(11.6%)と平均的数値であったが、るい瘦危険域(厚生省公衆衛生局栄養課)に入る者が 64 人(21.2%)と意外に多かった。血液総コレステロール(総コ値)の平均は $155.1 \pm 25.2\text{mg/dl}$ であり、 $>200\text{mg/dl}$ 以上の高コ値を示したものは 14 人あったが、 $200 \sim 242\text{mg/dl}$ の範囲にあった(4.9%)。これは後にもふれるが、るい瘦者が多いことが全ての値を低い傾向にしているものと考えられる。肥満者の総コ値平均は $177.8 \pm 27.4\text{mg/dl}$ であるのに対し、るい瘦者のそれは $146.8 \pm 18.5\text{mg/dl}$ と有意の低値を示した。